

カムリの歌 Rhif 8 *Hen Wlad fy Nhadau* 「わが父祖の国」

カムリの国歌とされる「わが父祖の国」‘*Hen Wlad fy Nhadau*’は「法的」には国歌として認められていない（永田（2012: 94）。ここで言う「法的」の意味は、日本の君が代のように法律として成文化されていない、という意味である。にも拘わらず、「わが祖父の国」についてのどの説明を見ても ‘*Anthem Genedlaethol Cymru*’（カムリ語で「カムリの国歌」（*Gwyddoniadur Cymru* (p.439)） ‘*the National Anthem of the Welsh people*’（Stephens (1998: 313)）として紹介されている。Meic Stephens はこの歌は「現在では、一般の同意によりカムリの国歌としての公的地位を与えられている」(下線筆者)¹と述べている。「君が代」が1999年に法制化された我が国の事情と比較すると、カムリにおいて一般に認められることによって「公的地位」を勝ち得たこの歌には、僅か東京都と四国を合わせたくらいしかないこの小さな国カムリが一丸となった底力の強さを感じずにいられない。

この歌はカムリ南部の町ポンタプリズ (*Pontypridd*) に生まれる。織物職人のエヴァン・ジェームズ²が作詞、息子のジェームズ・ジェームズ³が作曲した。1856年の1月、息子のジェームズはポンタプリズの町を流れるフロンザ川 (*Rhondda*) の岸边を歩きながら旋律を考案し、その日、そして翌日に父親のエヴァンスがこの旋律に3連からなる詩を付けたと言われる。その一週間後、ポンタプリズから西へ20kmほどの町マエステグ (*Maesteg*) にあるテイボー教会 (*Tabor chapel*) にて始めて公の場で歌われた。歌ったのは、エリザベス・ジョン (*Elizabeth John*) という名の16歳の少女である。最初この歌は、フロンザ河岸で作られた旋律であるためか文字通り「フロンザの河岸」‘*Glan Rhondda*’という題が付けられていた。この歌は音楽家のJohn Owen (1821-83) 著 *Gems of Welsh Melody* (1860-64) の中で紹介されたことで広く知られるようになり、1860年代には各地のアイステツズボドで歌われていた。

1874年のバンゴール開催のアイステツズボドでこの歌がロバート・リース (*Robert Rees*) が混声合唱団と共に歌った時、この歌が一躍注目を集めるようになる。この頃からこの歌がカムリの愛国心を最もよく表した歌、つまり国の歌として受容されるようになったのである。

¹ ‘Now accorded official status as the national anthem of Wales by general assent’ (Stephens 1998: 439)

² Evan James : カムリ語名は Ieuan ap Iago: 1809-78

³ James James : カムリ語名は Iago ap Ieuan: 1833-1902

繰り返しにある一文「海がこの愛する国を守る壁である限り／おお、古の言葉の行き続かんことを」とある。これは「海がカムリに周りがある限り」ということであり、すなわち「永遠に」ということを表わすカムリ語独特の表現である。つまり、カムリ語が永遠に生き続けるようにという祈りを込めた歌と言えよう。

参考文献

Davies, John *et al* (2008) *Gwyddoniadur Cymru*. Caerdydd: Gwasg Prifysgol Cymru

永田喜文 (2012) 『ケルトを旅する 52 章』 東京：明石書店

Stephens, Meic (1998) *The Companion to the Literature of Wales*. University of Wales Press.

Hen Wlad fy Nhadau 「わが父祖の国」

1. Mae hen wlad fy nhadau yn annwyl i mi, わが祖父らの国よ、わが愛しき国
Gwlad beirdd a chantorion, enwogion o fri; 誉れ高い名を馳せる詩人と歌い手の国
Ei gwrol ryfelwyr, gwladgarwyr tra môd, その雄々しき戦士たち、気高き愛国者たちが
Tros ryddid gollasant eu gwaed. 自由を得るため戦い、その血を流したのだ

Cytgan:

Gwlad, Gwlad, pleidiol wyf i'm gwlad,
Tra môr yn fur i'r bur hoff bau,
O bydded i'r heniaith barhau.

繰り返し

祖国よ！祖国よ！我、わが祖国を愛す！
海がこの愛する土地を守る壁である限り
おお、古の言葉が生き続かんことを！

2. Hen Gymru fynyddig,
paradwys y bardd,
Pob dyffryn, pob clogwyn,
i'm golwg sydd hardd;
Trwy deimlad gwladgarol,
mor swynol yw si
Ei nentydd, afonydd, i mi.

Cytgan

山岳のカムリよ
詩人の楽園よ
すべての谷 すべての崖が
我が目には絶景である
国を愛する心を持ってこそ
何と美しいことか
その谷川の 川の流れの ささやきよ
繰り返し

3. Os treisiodd y gelyn
fy ngwlad dan ei droed,
Mae hen iaith y Cymry
mor fyw ag erioed,
Ni luddiwyd yr awen
gan erchyll law brad,
Na thelyn berseinol fy ngwlad.

Cytgan

敵がわが国を その足下に
押さえつけた時にも
カムリ人の古の言葉は
いつになく逞しい
欺瞞の惨たらしい手にも
詩人の霊は阻まれなかった
わが国の ハープの甘美な響きも
繰り返し

文法解説で用いる略称

品詞

【名男】 男性名詞	【名女】 女性名詞	【名複】 名詞の複数形
【形】 形容詞	【動】 動詞*	【動名】 動詞的名詞
【bod】 bod の屈折変化形*		【副】 副詞
【前】 前置詞*	【接】 接続詞	【代】 人称代名詞*
【指代】 指示代名詞	【関代】 関係代名詞	【所代】 所有代名詞*
【動前虚】 動詞前虚辞	【冠】 冠詞**	【数】 数詞
【句】 句表現	【疑】 疑問詞	【関副】 関係副詞
【感】 感嘆詞	【叙述】 叙述の yn（後に名詞または形容詞が続く）； 後続の p,t,k,b,d,g,m は軟音化する	
【付加】 付加辞（yn, wedi など；後に動詞的名詞が続く） （軟）前置詞、人称代名詞など、後続する語の語頭子音に軟音化を伴う		

*動詞の活用形、bod 動詞の屈折変化形、前置詞の人称変化形、また人称代名詞の語形の説明には、以下の略語を用いる。

男、女：(文法性の) 男性、女性 単、複：単数、複数

1, 2, 3, 非：1人称、2人称、3人称、非人称

直：直説法 仮：仮定法 現：現在 過：過去 未：未来 未完：未完了

** y, yr, 'r などの定冠詞の場合には【冠】とだけ記す。ただし定冠詞以外の冠詞類 ('banodolion' GC § 4.66: 例 pob 「すべての」; rhai 「いくつかの」) もここに含め、その場合には意味も記す。

GPC = Thomas, R. J., Bevan, Gareth A., a Donovan, P. J. (編) (1967-2002)
Geiriadur Prifysgol Cymru (『カムリ大学カムリ語辞典』)
Caerdydd : Gwasg Prifysgol Cymru/University of Wales Press)
GC = Thomas, Peter Wynn (1996) *Gramadeg y Gymraeg*. Caerdydd: Gwasg Prifysgol Cymru/University of Wales Press

